

インターバンクの声（2016年2月25日）

東京時間の深夜午前1時頃、ドル円が2月11日（東京市場は祝日で休場）以来となる111円割れが目前に迫るところまで円買いが進んだ。前回のドル安値を割り込むこと自体は単なる心理的な部分だが、ここを割り込むとテクニカルな次の目標値が110円ないし107円になってしまうので、G20が終わらないうちに相場展開が一変してしまうところだった。原油価格が米エネルギー情報局（EIA）の在庫週報でガソリン在庫が減っていたことが分かって反発したことに加え、ニューヨーク・ダウも終盤に向かって持ち直したことで、どうにか円の売戻しに繋がったようだ。ただ、ニューヨークや東京のディーラー仲間は依然としてドル円の下落を例外なく想定しており、約一週間前までは115円がドルの戻り売り目標だったのが、今は113円台まで下げているようだ。G20で相場が落ち着くような合意が出てくるのを秘かに期待しているが、市場はその先3月の日銀政策決定会合やEUからの離脱を問う英国の国民投票など、イベントリスクのほとんどに対して円買い方向に向かう相場へのプロテクションをかけているらしい。今日もドルの戻り売りが優勢となりそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。